菊の会だより

Kikunokai

踊る・おどる・躍る
心躍る人生

今、新しい時代の
民族芸術の創造に
情熱を燃やしています

［発行］
舞踊集団 菊の会
代表 畑 道代
〒161-0031
東京都新宿区西落合2-21-23
電話 03-5983-6001(代)

創立25周年 誠にありがとうございます

舞踊集団 菊の会
代表 畑 道代

舞踊「寒牡丹」

混迷した社会状況の中にも新年が明け、皆様におかれましては、お変わりもなく御健祥にお過しの事と存じます。

菊の会創立二十五周年は、私達にとりまして大きな目標でしたが、皆様のお蔭をもちまして昨年無事に乗り越える事が出来、また新たな決意で次の第一歩を歩み始めました。

私が舞踊の道に入った昭和二十年の暮から、戦後の時代をすぎ、社会も自分自身のまわりも大きな変化を繰り返し、その時代の大きな壁を乗り越える中で菊の会を創立いたしました。夢中で走り続けた二十五年でしたが、小さいながらに舞踊が生きて行ける世界をようやく見つけられた様に思います。今年は、今までのものを整理し展開させ、後輩の人達が社会で活躍して行けます様、共に努力を重ねて参りたいと思います。

どうぞ、変わらぬ御支援、御指導を賜ります様、お願い申し上げます。

公演メンバー代表
原 聰

皆様におかれましては、益々ご清祥の事とお慶び申し上げます。

昨年、菊の会が創立二十五年を越えられましたことは、畑代表の並々ならぬ努力と、何より皆様の温かい御声援や御支援に支えられての事と、ここに改めて御礼を申し上げる次第でございます。本当に有り難うございました。

私たち団員は、菊の会の公演活動に伴い、今日まで数々の作品で沢山の舞台を踏ませて頂きました。

この事に感謝し、今年は更に深いものにする為に、一人一人が日々の精進を大切に力をつけて参りたいと思います。

そして、新しい世紀に向け、日本の美、日本人の心の通った、今までにない新たな民族舞踊の創造を目指して、たゆまぬ努力を重ねて参ります。何卒、変わらぬ御指導、御鞭撻の程を心よりお願い申し上げます。

人と人との出会いを大切に新世紀へ

新しい挑戦と創作活動

――創作舞踊劇「カッチャいかねかこの道を」は、「観る人に勇気と希望を与え、人間としての生き方を考えさせられた素晴らしい作品だった」との声も数多く寄せられていましたが、今年はどのような作品を公演する予定ですか。

インド公演「散る桜」

畑 やってみたい題材が一杯あります。その中でも日本の歌、日本民謡の宝とも思っております「江差追分」をモチーフにした作品を今、お願いしています。

北海道の江差では、毎年何日間も、この江差追分の曲だけのコンクールが行われています。節もしっかりしていて、一歩もはずす事が出来ない程、出来上がったものです。江差町では、電話でもその番号にかけると「江差追分」の曲が流れてくるという具合に徹底されています。

「江差追分」を作品にしたくて、数年前に雪の江差に参りましたが、岸壁に烈風が吹きつけて削がれた岩の壁は、言葉を必要としない鮮烈な印象で、寡黙な日本人の心を伝えている様に感じました。

どんな作品になるのか、はたして私達でそれが出来るのか、とても心配ですが、秋には公演出来る運びにしたいと思っています。

また、これとは別に、自分の中から生まれてくる音楽、リズムをもって、菊の会の踊りを創りたいと思って来ました。無理なことですが、先生方や先輩に助けて頂いて、一つ一つ実現したいと考えています。

――また、創立当初の子供達も成長されて、これからが楽しみですね。

畑 昨年は、東京新聞主催の第五十四回全国舞踊コンクールに、若い人達を参加させる事が出来、一位と三位の入賞をさせて頂きました。

荻江節「竹」

入門して来てくれた子供達が長く続けて行くには、魅力ある舞踊が必要ですし、厳しくもしなくては上達しませんし、本当に難しい事でした。

ようやく古典の良さがわかって、楽しみな段階に入る事が出来ました。

――最後に本年の展望と抱負をお聞かせ頂けますでしょうか。

畑 展望とか抱負とかを言うのが苦手です。何もしゃべらないで、一つずつやって行きたいと思って来ましたし、また、それしか出来ないのです。

古典舞踊の充実した会をもつ事は、本当に素晴らしいことです。しかし、今の社会の中で古典舞踊の作品が誰にでも受け入れられるとは考えられませんし、時代のずれがどんどん広がっています。

今、菊の会に頂く舞踊の仕事のほとんどは、舞踊を知らない、また、舞踊を欲しない観客の中での仕事です。その中で特に、菊の会にお仕事を下さる事務所の要望に応え、観て下さる方が何等かの点で満足し、日本人としての思いや血を蘇らせて欲しい、との思いで作品づくりや選曲に力を入れてやって来ました。

きれいなものが好きで、若い人達の、それぞれに似合ったきれいな着物姿、きれいな舞台を創りたくて、それが生きがいでやって来ました。人が美しい汗を流し、きらきらと美しい瞳で、精一杯働いたり躍ったりしている姿が、日本人には一番似合っていると思っています。

そんな人なら若い人でも年輪を重ねた人でも集まってきて欲しいと思います。

今までを振り返って、担当講師の人達や公演メンバーの人達に対して充実した稽古をして上げられたのは、創立した初めの七年位でした。

後は、本番のための稽古に追われて来ました。本来の稽古は会のための稽古ではなく、自分自身の日頃の稽古が大切だと思います。

今は、多くを話さないで、また、菊の会だよりで御報告が出来る様に頑張って参ります。

どうぞ、よろしくお願いいたします。

上半期の公演・行事のお知らせ

■インド独立50周年
日印友好文化祭記念
「菊の会 日本の心を躍る」
2月20日（金）
午後2時・6時30分開演
東京厚生年金会館
入場料／4,500円

■おさらい会
3月1日（日） 午後1時30分開演
菊の会八瀬研修所（京都）

■菊の会千葉教室発会式
3月7日（土） 午後1時30分開演
千葉市民会館小ホール
入場料／1,000円

■インド独立50周年
日印友好文化祭記念
「菊の会 日本の心を躍る」
3月9日（月）
午後2時・6時30分開演
神奈川県民ホール
入場料／4,500円

■「雪月花に舞う」パート1
4月3日（金） 午後6時30分
4日（土） 午後1時、6時30分
志木市民会館（パルシティホール）
前売券／¥4,500

■アトリエ公演
4月・7月（予定）
菊の会会館（東京）
5月（予定）
菊の会八瀬研修所（京都）
入場料／3,000円

■第24回教室発表会
8月18日（火）
なかのZERO大ホール

菊の会千葉事務所
お稽古日・毎金曜日（月四回）
午後一時～三時、長尾会館
千葉市中央区春日一ノ一ノ八
責任者 酒井路子
TEL（0476）95－5840

菊の会神奈川事務所
都筑区茅ケ崎南五ノ二十四ノ十四
相模原教室
責任者 湯澤りつ子
相模原市上鶴間七ノ十六ノ五
TEL（0427）43－3614

踊る・おどる・躍る――――心躍る人生を

創立二十五年の感謝を込めて、今、初心にもどって更なる精進を！

菊の会の舞台芸術を理解し、熱い声援を送って下さる人々の輪も広がり、今、新たな時を迎えた菊の会。代表の畑道代氏にその活動と展望、そして抱負を語ってもらいました。

――昨年、菊の会は創立二十五周年の佳節を迎え、大きな節目の年だったと思いますが、どのような一年だったでしょうか。

畑 一口に言って大変でしたが、充実した年となりました。

毎年、秋に新しい作品を公演する様にして来ましたので、夏には、菊の会にとって大切な創作舞踊劇「カッチャいかねかこの道を」（一九七六年芸術祭優秀賞受賞）の作品を、創立二十五周年記念公演の一環として行いました。それが大変好評で、秋にもという声を沢山頂き、再度公演する事になりました。

初演の時に子役だった原聰さんが私のご亭主役に成長し、武藤強志君（十才）と一瀬正行君（四才）が入門間もないのに、懸命に子役で舞台を務める姿に二十五年の歳月を改めて感じました。

創立当時は稽古場もなく、今日は日暮里、錦糸町、麻布、千駄ヶ谷、麹町、大森、初台と大きな荷物をさげて通って来てくれました。

この頃、テレビに男の子達が揃って出演する事があったのですが、司会者から「菊の会は、何処にあるのですか」と聞かれても、誰も答えられず胸の痛む思いをいたしました。

昨年、京都八瀬にも稽古場を建てる事が出来て、お弟子さん達や友の会の皆様も大変喜んで下さいました。

菊の会八瀬研修所は、新しい舞台芸術の発信地！

――日本の伝統芸術が息づく京都の地に菊の会八瀬研修所が完成したことは、大きな意義があると思いますが……。

畑 十四才で京都から上京して……、まず東京と関西の芸の違いを肌で感じました。そして両方の良さと違いは言葉では表わせませんが、現在、舞台づくりをする中で、とても役に立っている事に気付きます。

京都の洛北、八瀬の地に稽古場を建てることが出来、数十年ぶりに京都に帰れて、本当に嬉しく思っています。

昨年五月十二日に入居して以来、小さな舞台ですが松羽目も緞帳も設置して、内見会、夏期公演、秋季公演と三回行う事が出来ました。柿落としの演目は、御祝儀「寿菊三番叟」、「古都歳時記」、スライドによる「二十五年のあゆみ」、演歌選集「四季に舞う」。夏季公演は、民謡風土記「おけさ海を行く」、秋季公演は、「連獅子」、「藤娘」、「菊の会日本の心を躍る」を行いました。地元八瀬の方を初め、私が生まれ育った御近所の方々、小学校、中学校の同窓生、そして東京からも、地方からも、大勢のお客様が毎回楽しみにいらっしゃって下さり、思いがけない展開となりました。

八瀬の研修所が新しい時代の芸術の発信地になったらと、意気込みだけは大きいのです。

――これからも京都でのアトリエ公演が楽しみですね。

畑 同じ作品を東京と京都で公演しましたが、その違いがとても勉強になりました。

やはり、土が人を育てるという、今更ながら人間も自然の一部だと痛感しています。

今の所の予定ですが、東京のアトリエ公演は四月、七月、十二月で、京都八瀬の公演は五月末日と九月に行います。大劇場で公演している作品を、八瀬の様に小さい所でしっかりと仕上げることが本当に大切だと思いました。

舞踊「寒牡丹」

▲「菊の会日本の心を躍る」祝太鼓

「菊の会日本の心を躍る」越中おわら節

新世紀を拓く舞踊家を目指し幅広い活動を展開

――創立以来、海外でも活躍され続けていますが、どのような反響があるのでしょうか。

畑 海外公演は、民音からの派遣で、一昨年はネパール、昨年はインドと、年に一回ずつ行かせて頂きましたが、毎年振り返ってみますと年に二、三度行っている事になります。

うちの人達は、本当は海外公演は心配で……。食べ物の違いが大きく、体のコンディションに出て来ますから、とても緊張するのです。それより日本の田舎へ行く事の方が喜んでいる様です。

国際化の中で、こんな事言っていては駄目なのですが、省略の美がわかり、お茶漬の味がわかるのは、やはり日本人です。この美と味が外国に伝えられたら嬉しいですね。

とは言え、イギリスでは、かつてシェークスピアの演劇を上演した劇場で、菊の会公演を行った時、素踊りの清元「熊野（ゆや）」で空の色が変わるのを感じたといわれたのには驚きました。その時の話しの中で、シェークスピアを演ずる昔の役者は素晴らしかったが、今は実力のある役者が少なくなったという事も聞きました。

フランスでは、小学生を対象にした劇場での学校公演で、日本の子供達とは比較にならない微妙な感覚の分かり方に脱帽したり、インドの方の舞踊に対する深さも感じる事が出来ました。

――また、TV番組でも菊の会の踊りを見ることがあります。舞台とは違った意味で大変な事も多いと思いますが、どのような努力をされているのでしょうか。

畑 この所、テレビ東京での「夏祭りにっぽんの歌」や「年忘れにっぽんの歌」に振付、出演させて頂いています。

師匠が生きていましたら、演歌に振付したということは、即破門となることでしょうが……。菊の会を運営する様になって、演歌の振付を依頼されて初めは出来るかと心配しましたが、何回も曲を聞くうちに、曲によっては、作詞者が、あるいは作曲者が人生をひっさげ、生命をかけて取り組んでいる事が感じられて、深夜思わず正座してしまった事がありました。それから、取り組み方が一変しました。

また、本年一月三日のNHKでの「祥福万来、新春民謡」は狭いスタジオでしたが、求められているものは高く、出来るのだろうかと当日まで心配な日が続きました。

創作舞踊劇「カッチャいかねかこの道を」

長唄「石橋」インド、ニューデリーのシュリ・フォート・オーディトリアムで

特に、フィナーレの牛深ハイヤと阿波おどりの掛け合いは、勉強になりました。まとめるまでの時間がなく、私が空間構成で精一杯となり、若い人が良く頑張ってくれて嬉しく思いました。

――更に、昨年の自主公演は、会津若松市、東京、埼玉と例年になく数多く開催されましたが、いつにも増して心に残るものになったのではないでしょうか。

畑 自主公演というと、いかにも自分達だけでやっていますという感じですが、沢山の方々がチケットを売って下さって初めて出来る事で、それに応えなくてはと精一杯頑張っているのが自主公演です。

昨年は、会津若松市で市の文化祭参加の行事に加えて頂き、また、久方振りでしたのに、前回通りの御後援を頂いて、盛会に行うことが出来ました。

今年も行う予定だと友の会の方々が張り切って下さっています。

インド公演　長唄「流れ」

とにかく昨年は、「カッチャいかねかこの道を」の作品を夏と秋に続けて公演出来、加えて秋は、私が三隅治雄先生作、田中利光先生作曲「寒牡丹」、男性が荻江節の「竹」を踊ったので、一層大変でした。

その公演の中で、創立当初から御指導下さった三隅先生から、菊の会のあゆみについてお話しがあり、その内容に多くの方々が喜んで下さいました。

この二十五年間にかかわって来て下さったお一人お一人の様々な事は、まるで人生のドラマを見ている様で、菊の会のあゆみと共に忘れられないものです。

以前に比べ、最近入門して下さる方の御父兄に理解があって、どれだけ助かっているか知れません。大人の稽古を待っている子供達の姿勢の変化が、何よりの励みになりました。